

## 要 約

渡辺 泰

**1.事業目的：**牛久市との協働事業として、「市民の木」をはじめ、古木や希少木を調べ、その成果を報告会、資料写真展、冊子等を通して市民に提供することを目的とする。平成 18 年 4 月から 21 年 3 月までの 3 年間でフェーズ 1、同年 4 月から 23 年 3 月までの 2 年間でフェーズ 2 として推進した。

**2.事業設定経過と推進態勢：**平成 18 年 3 月、牛久市へ協働事業を申し入れ承認された(付属資料 79 頁)。同時にボランティア募集記事を<広報うしく>へ掲載、8 名のメンバーを迎え、以降これら方々が事業推進の中心的役割を果たした。4 月 23 日、牛久市中央生涯学習センターで、登録 32 名中、24 名で発足会を開催して活動を開始した。

協働事業の全般的な推進にかかわる事項、活動対象木所有・管理者等への協力依頼他について、月 1 回牛久市緑化推進課と連絡会を開き、円滑な推進に努めた。

### 3.結果

**フェーズ 1/幹周調査：**全調査本数は 164 本、うち幹周 3m 以上の巨木が 74 本。うち「市民の木」が 33 本、その他が 41 本。樹種別にみると、ケヤキ 20 本、スダジイ 14 本、カヤ 7 本、スギ、ムクノキが各々 6 本、イチョウ、エノキが各々 4 本、その他が 13 本である。最大幹周は城中町水神塚のスダジイの 7.50m である。

**樹高調査：**全調査本数 164 本の樹高の範囲は、最大が久野町観音寺イチョウの 38m、最小が柏田町ナツグミの 4 m である。巨木 74 本の樹高をみると、30m 以上が 7 本で、ケヤキ 5 本・イチョウ 2 本、20～30m 未満がほぼ半分を占め、38 本で、ケヤキ 14 本・スギ 4 本が主なものである。20m 未満が 29 本で、スダジイが 12 本を占めている。

**樹冠幅調査：**樹冠は樹種特有の形があるが、生育環境や人為的条件の影響等を強く受ける。巨木の最大樹冠幅をみると、広葉樹が 30～7m、針葉樹が 20～8m である。広葉樹の 1 位は島田町個人屋敷のケヤキ 30m、針葉樹の 1 位は城中町得月境内カヤの 20m で、スギは樹冠が小さく、最大でも 59 位 14m である。

**樹木調査結果のまとめ：**全調査木は 164 本・66 樹種。調査後巨木のケヤキ・ムクノキ、古木のイヌザクラ・ナツグミ・ニガキ・ヤブツバキ 2 本が伐採。全調査木を樹種別にみると、ケヤキが最も多く 21 本、次いでスダジイ 15 本、カヤ 8 本、イロハモミジ・スギ・ムクノキ 7 本、ヤブツバキ 6 本、エノキ・コブシ・ヤマザクラが 5 本、その他複数本 14 種、44 樹種が 1 本。また巨木 74 本・古木 69 本・希少木 13 本である。

**植生調査：**社寺境内 26 箇所の高木直径 50cm 以上の高木は、奥原町鹿嶋大神宮境内が 35 本うちスギ 25 本、柏田町柏田神社参道 32 本うちスギ 14 本、上太田町鹿嶋神社境内 31 本うちスギ 18 本。同じ 26 箇所に草本植物 110 種、個人屋敷 28 箇所に同じく 185 種を確認。牛久市絶滅危惧 6 種、希少種 3 種、木本植物の希少種 3 種を認めた。

**街路樹調査：**街路樹に種名板を取り付けるための事前調査として、街路樹約 5,000 本について、市緑化推進課管理の 74 路線、同管理外路線 5 路線を調査し、配置図と内訳表の冊子を提出した。また、「広報うしく」の毎月 1 日号にくわが街の木>のタイトルで、街路樹の解説文と写真を提供してきた。なお、「街路樹グループ」の活動は、平成 20 年 12 月に「チーム『街路樹 20』」として独立し、活動を継続している。

**「市民の木」と地域住民の関わりへの聞き取り調査：**「市民の木」37 本・22 箇所について、地域住民との関わりを 5 項目に分け、関係者からの聞き取り調査を行い、①個人の屋敷、②神社の境内、③寺院の境内、④共同墓地の四生育場所に分けてとりまとめた。

**フェーズ 2/診断：**スギ 5 本、スダジイ 4 本、ヤマザクラ 3 本、ムクノキ 2 本、クヌギ、サイカチ各々 1 本の 16 本を診断した。「樹木活力判定基準」の「活力判定」によりランク付けをすると、C ランク 3 本、B ランク 8 本、A ランク 5 本である。

**管理：**10 箇所 15 本の幹基部の枝・キツタの除去、周囲の竹の伐採などを実施。スダジイ 6 本、ウワミズザクラ 2 本、1 樹種 7 本。生育地別にみると、神社境内 8 本、寺院境内 3 本・共同墓地・個人氏神境内・公共駐車場・個人屋敷が各 1 箇所 1 本である。

**ガイド：**緑化推進課が「巨木探訪会」の呼称で公募を行い、里山の会がガイドを分担。5 回実施し延べ参加者 154 名。アンケートによれば、参加者は 60～70 歳代が大部分で、樹木や巨木、地域の歴史に関心があり、今後の継続を要望するものがみられた。

**フェーズ 1・2 共通/撮影：**撮影ファイルを登録、一元的に管理、Yahoo グループのサービスを利用して、情報の共有を図った。毎年 400 ファイル以上を登録・アップ。平成 22 年度は約 300 ファイルで、「牛久の巨樹」掲載写真の再撮影に力点を置いた。

**見学研修：**フェーズ 1 では、3 年間に 14 回実施し、199 名の参加があった。フェーズ 2 では 2 年間に 10 回実施し、110 名の参加があった。

**報告会：**年度末に資料・写真展と報告会を 3 回開催。来訪者数は平成 18 年度 2 日間 81 名、19 年度 3 日間 113 名、20 年度は悪天候が災いし 2 日間 35 名に止まった。

**会報への投稿：**事業報告では、フェーズ 1 が 38 本 25 著者、フェーズ 2 が 23 本 14 著者。「今月の巨木」に 11 回 1 編者、「今月の古木・希少木」に 47 本 9 著者が投稿。

**里山秋祭り：**平成 19 年度は樹木測定実習、来訪者は大人 50・子ども 40 人。平成 20 年度は樹木測定と「ドングリ教室」「樹木クイズ」コーナーを設け、来訪者大人 88・子ども 65 人。クイズには 10 樹種の葉・果実を出題し、正解率が 80%以上であった。